

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670600026
法人名	社会福祉法人 悠久会
事業所名	グループホーム あいの郷
所在地	徳島県三好市三野町太刀野6-14 (電話) 0883-76-2526

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:8人、非常勤:6人、常勤換算:北ユニット7.1人 南ユニット6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造づくり	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500~24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費9,000円、寝具リース代3,000円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 20 日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 89 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三野田中病院、田岡歯科、田村歯科
---------	------------------

徳島県 グループホームあいの郷

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は川沿いの道路から一望できる場所に位置し、前の広場には等身大の「かかし」が多数、テーブルを囲んで飾られている。この「かかし」は利用者と職員が「待つことの大切さ」を表して作ったもので産直市に出品し、優勝した作品である。「かかし」のユニークな表情を写真家が撮影に訪れたり、広場は保育園児たちとの交流の場でもある。8月には折り紙やちぎり絵等を飾った「なかよしアート展」を開催し、1歳から100歳までの幅広い人達の来訪があり、地域との交流を図っている。また、「あいの郷便り」には運営推進会議の議事録を掲載し、会議の様子や取り組みを紹介して利用者家族との絆も深まり、サービスの質の向上に反映されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題である運営推進会議の開催頻度と行政職員または地域包括支援センター職員の参加、研修計画の作成、全職員への研修報告書の回覧と確認印・サインは全て改善されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員全員で自己評価に取り組み、作成されている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、入居者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、事務長、職員などが参加している。会議ではホームの利用状況や活動内容、評価への取り組みなどの報告、防災訓練の実施と協力要請、行事等の計画と参加依頼などを話し合い、運営に反映させている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを記載した便りと「あいの郷便り」を毎月家族に送付している。「あいの郷便り」には運営推進会議の議事録を掲載し、家族と情報を共有している。意見や苦情などはアンケート調査で把握し、サービスの質の向上に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の祭りや運動会、季節の行事などに積極的に出かけている。また自治会に出席して馴染みの方達との交流も続けている。利用者と職員と一緒に作った等身大の「かかし」がある事業所前の広場は、地域の方の散歩コースや保育園児の遊び場になるなど、幅広い世代の交流が図られる場所となっている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は全員、事業所の理念を理解し、見やすい場所に掲示するなどして共有している。また介護計画や日々のケアにも理念を反映するなど、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭りや運動会、季節の行事などに積極的に出かけている。また自治会に出席して馴染みの方達との交流も続けている。利用者と職員が一緒に作った等身大の「かかし」がある事業所前の広場は、地域の方の散歩コースや保育園児の遊び場になるなど、幅広い世代の交流が図られる場所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員全員で自己評価に取り組み、作成されている。また前回評価での課題についても具体的な改善計画を立て、すべて改善されるなどサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、入居者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、事務長、職員などが参加している。会議ではホームの利用状況や活動内容、評価への取り組みなどの報告、防災訓練の実施と協力要請、行事等の計画と参加依頼などを話し合い、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは連携を密にし、意見交換などとおして事業所の考え方や取り組みを知ってもらったり、情報交換を行うなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを記載した便りや「あいの郷便り」を毎月家族に送付している。「あいの郷便り」には運営推進会議の議事録を掲載し、家族と情報を共有している。金銭管理簿には家族の確認印・サインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や重要事項説明書への内・外部の苦情相談受付窓口の記載を行っている。また意見や苦情などはアンケート調査で把握し、サービスの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間での異動を行っている。ユニット間を行き来することで馴染みの職員を増やし、離職などの際の利用者への影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員に研修期間を設けて理念や利用者一人ひとりの支援方法を理解した上で職務に就くようにしている。また年間計画を立て、事業所内・外の研修にも参加して技術の向上に努めている。研修報告書は回覧し、確認印・サインがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、情報収集や近隣の事業所との相互評価、交流などを通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者と居間などで同じ時間を過ごしてもらったり、職員と話をするなどして徐々に馴染みの関係を築けるよう家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所前の畑と一緒に野菜を作ったり、郷土料理を教えてもらうなど、共に支え合いながら生活する関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との信頼関係を大切にし、日常的なコミュニケーションの中で本人の希望や意向の把握に努めている。意思の把握が困難な場合には家族に相談したり、担当職員が寄り添うなどして利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞いたり、医師や他の関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映するなどして介護計画を作成している。計画には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて、また利用者の状態変化等に応じて随時の見直しを行っている。職員は介護計画様式やアセスメント方法を見直すなど、よりよいサービスの提供に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、通院支援などを行っている。また利用者の状況や家族の要望等に応じて、一時帰宅や外泊の送迎など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。また医師の指示による訪問看護を受け入れるなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について入居時に相談している。利用者や家族の希望を大切にして医師を交えて話し合いを行うなど、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを大切にして排泄や入浴、食事の言葉かけはゆったりとさりげなく行われている。利用契約書や運営規程に秘密保持、個人情報保護について明記し、全職員の理解と徹底を図り、適切な管理が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近隣の図書館へ通ったり、切り花を生けたりするなど趣味にかける時間を大切にして、利用者の希望にそった生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や旬の食材、ホームで採れた新鮮な野菜のことを話題にして会話を楽しみながら、利用者と職員と一緒に準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にそって柔軟に支援している。また菖蒲湯やゆず湯など、季節感を感じてもらえるような工夫も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や詠歌、書道、裁縫、料理教室など利用者一人ひとりの生活歴を活かした楽しみごとを支援している。また初詣や彼岸の墓参り、神社へのお参り、地域のお祭りなどの年間行事への参加も積極的に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や理美容院、ドライブなど利用者の体調や希望にそって日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は利用者や職員、消防署員などが参加し、年2回実施している。また運営推進会議で地域の方と防災について話し合い協力体制を確認したり、地域指定の避難場所へ利用者と一緒に出向いて場所を確認するなどしている。災害時の備蓄も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量をチェックし、毎日の体調を把握している。また各居室にはペットボトルを置くなど、水分を摂取しやすいよう工夫している。管理栄養士である職員から、栄養バランスに配慮した専門的な支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	切り花を生けたり季節ごとの行事で作った飾りを置くなど、生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせる共用空間がつくられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた箆笥などの家具やアルバムを持ち込むなど、馴染みのものに囲まれ居心地よく過ごせるよう工夫している。		